

## 私の仕事(若手職員のレポート)

(株)日水コン／下水道事業部／  
北海道下水道部／技術第二課

郷野梨夏



### ■はじめに

「なんで女性で、建設コンサルタントの業種を選んだの？」これが入社間もなく飲み会の席でまず問われた一言である。15年前に2年間中国で暮らしたことがあり、中国のトイレ事情を肌で感じていたことと、単純に建設コンサルタントの仕事が楽しそうな仕事だと思ったことから、あまり深くは考えずこの業界に就職した私にとっては、質問の意図が読めなかった。今思えば北海道下水道部に初めて配属になる女性の新人に対して、少しの戸惑いと妙な緊張感があったのかもしれない。女性特有の同調性を求められる雰囲気が苦手な私にとっては、むしろ男性社会の方が好都合だと感じていたが、男性側はそれなりに気を遣うのだろうとその時察した。このような環境の中で、これまで1人の技術者として仕事を教えていただき、さらに業務を任せていただき、日々様々な方に支えられていることを感じている。本稿では、私の経験と社内の活動についてお話す。

### ■北海道での勤務

初勤務地である北海道に初めて足を踏み入れてから早5年が経過している。北海道に配属して間もない頃は、道内各地の距離感や、地名が分からず(読めない)、戸惑っていた。そんな中、社内の大先輩の方に「北海道を大好きになってください」と笑顔で言われてはじめて、北海道を大好きになるための知識が圧倒的に足りないことに気が付いた。少しでも北海道のことを知ろうとまず始めたのは、業務を担当する自治体名の由来(アイヌ語

の意味)を検索することである。土地の風土や文化を現した単語から当時の様子を想像し、出張先でドライブするのが、今では私の密かな楽しみとなっている。

### ■初めての現場

1年目に同行した現場は水面制御装置の設計のための調査だった。初めて雨水吐き室に入った時は、「意外ときれい」と素直に思い、地下の知られざる神殿みたいで感動したことを覚えている。水面制御装置の設計業務は、合流改善対策の一環で、雨天時に雨水吐き室から河川へ夾雑物の流出を抑制する装置を越流堰と遮集管口の手前に設置する業務である。

昨年も、水面制御装置の設計業務に携わり、歩廊やスクリーン撤去後に露わとなった鉄筋・金属プレートなどの障害物を避けてのガイドウォールの設置方法など、ご指導いただきながら業務を実施し、大変勉強になった。設計後、施工現場に同



写真-1 水面制御装置設置後の様子

行した際には、作業される方が重い金属プレート  
を作業員が軽々と持ち上げ組み立てられていく水  
面制御装置をみて、机上で描いていた想像が現実  
になり、とても嬉しかったことを覚えている。今  
年も調査を実施しており、今ではマンホール蓋く  
らいであれば1人で開けられるようになった自分  
の姿を、お世話になっている業者さんから「自社  
の新人女性社員に見せるから」と動画を撮って頂  
き、私の成長が少しでも女性技術者のお手本にな  
っているようで嬉しく感じた。

### ■施工管理業務の同行

し尿処理場延命化工事の施工管理業務に、勉強  
のために同行させていただいた。この工事は、3  
町共同で運営していたし尿処理施設が老朽化した  
ため、当時し尿処理施設を10年延命化し、し尿処  
理施設の延命期間中に、MICS事業を踏まえた今  
後の運営方法について検討するという事業であ  
る。この延命化工事のうち、汚泥消化槽の防食工  
事に同行させていただいた。最近は、下水処理施  
設の新設工事が少ないことから、汚泥消化槽は外



写真-2 し尿処理センターの改築工事の様子  
(汚泥消化槽)

からしか見たことがなかったが、中から見られる  
絶好の機会をいただき、下部の点検口から高さ  
約10mの消化槽に入り、防食塗装の各試験の方法  
と施工の考え方について教えていただいた。下か  
ら見上げる消化槽内部は想像より大きく感じら  
れ、消化槽のこの大きな空間が町民の生活を支え  
ていること、そして延命化工事によりこれからも  
支えていくことになることを感じた。この業務の  
一環として、MICS事業にむけての条件整理と  
MICS事業を遂行するための業務の流れについて  
提案をさせていただいているが、今後10年単位で  
行うMICS事業を想像し、事業の大きさを感じた。  
そして私もそのような業務に長く携わっていきた  
いと思った。

### ■女性技術者との話の中で

社内では近年、毎年新入社員の中に、女性技術  
者が数名含まれており、職場内に女性技術者が増  
えてきたことを実感している。それと同時に、女  
性技術者に対する配慮等を考える機会が多くな  
ってきた。北海道支所の女性の後輩が配属されて  
まもない頃、「女性用の更衣室はありますか」と言  
われて、改めて北海道支所に女子更衣室が無いこ  
とに気づいたこともその1つである。当時の支所  
には簡素な更衣室（パーテーションと磨りガラス  
付きのドアで囲った小スペース）を一部の男性社  
員が使用していたが、中から鍵は掛けられず、使  
用中かどうかを表示するプレートがあるだけだっ  
た。女子トイレで着替えていた私にとっては、不  
便さを感じていなかったが、女性社員が増えれば  
それだけ、そのような細かい配慮も必要となり、  
このような声を拾い上げていくことで、より女性  
も男性も働きやすい環境になっていくのだろうと  
感じた。

他社に勤める友人は調査を主に担当する女性技  
術者であるが、彼女は出産後、1年で社会復帰を  
しており、会社に仕事量の配分について協力して  
もらいながら育児と仕事を両立している。彼女は  
授乳中のため「ビールが飲めない」と嘆いていた  
が、そのぐらい元気に育児と仕事をしているよう  
で、楽しそうに見えた。育児と仕事の問題は、立

場の違いから様々な意見があると思われるが、女性陣が社会に出て、自分らしくいられるのが一番ではないかと感じている。

## ■雪まつり等社外活動

わが社のCSR活動の一つとして雪まつりの市民雪像の参加を掲げており、恒例行事として北海道支所の若手が幹事となり、参加している。市民雪像は、2月上旬の5日間（平日含む）の期間中に、団体ごとに2m×2m×2mの雪の塊から雪の削りと盛りを繰り返して思い思いの雪像を製作し、雪まつりの開催期間中に完成した雪像のお披露目をするイベントである。平日は、当然夕方からの作業開始となり、有志の皆さんに手伝ってもらいながら-5度~-10度程度の極寒のなか削っていくのだが、部所などに関係なく、みんなで一緒に「納得のいく雪像を作る」というゴールに向かっていく経過は楽しいものである。たまの熱爛やお茶等の差し入れが嬉しく、良きコミュニケーションの場となっている。雪像をしている最中は手がかじかみ、休憩時には、肉まんを持つ手が震えて食べにくいことや、筋肉痛が業務中につきまとうこ



写真-3 雪まつり市民雪像参加の様子

ともあるが、雪像が完成した時の達成感と、通りがかる幼い子に、「あ！○○だー！」と雪像制作中にキャラクターを当ててくれる喜びから、また来年も参加しようと毎年思うのである。

## ■社内のクラブ活動

社内倶楽部に参加し、会社の仲間と登山・マラソン等を楽しんでいる。最近では、美瑛ヘルシーマラソンの10kmマラソンに参加し、涼しい夏の北海道で、美瑛の丘を堪能しながら走るマラソンは、最高に心地よかった。北海道支所から大阪に転勤となった先輩も大阪の方々を連れて毎年のように参加しており、合わせて10人規模でマラソンに参加している。こうしたクラブ活動を通して、他の支所の方々と交流でき、様々なつながりの中で、支えられていることを感じる。年代も部所も支所も異なるこのようなイベントで北海道の大地を感じながら飲んで笑って過ごすうちに、また頑張ろうと思えるのである。今後も、仕事に遊びにいろいろな方々と交流を持ちながら、下水道業務に携わっていきたいと考えている。



写真-4 美瑛ヘルシーマラソン参加の様子